

うま獣医のよもやま話 ③ 敷地光盛 獣医師

繁殖牝馬の歯の管理について



浦河診療所 敷地 光盛
出身地 福岡県福岡市
平成12年 北海道大学卒業
同年4月 日高軽種馬農業協同組合入社
荻伏診療所を経て、現在浦河診療所勤務

HBA浦河診療所の敷地と申します。今回は繁殖牝馬の歯の管理についてお話したいと思います。種付けもいよいよ佳境に入ってきて、それどころじゃない！と言われそうですが、この時期だからこそ大切なことなのです。歯の異常は、ボディコンディションスコア（太り具合の目安）の低下、ひいては受胎率の低下、早期胚死滅、無発情などの繁殖活動そして泌乳期の栄養摂取に大きな影響を及ぼすからです。

皆さんは繁殖牝馬の歯の検査を定期的に行っているでしょうか？6歳以上の成馬では年に一回の検査を推奨しています（若馬では年二回）。その理由は、①歯の問題は健康や繁殖成績に直結すること、②歯の異常は早期発見が重要なこと、③症状として出る時には重症になっていることが多いこと、などです。

よくある歯の異常は、歯の縁がノコギリのようにとがる（写真1）、白歯の端がつららになる（写真2）、抜け



（写真1）ノコギリのようにとがった歯

替わり時の異常、歯が折れる、歯のすき間に食べ物が詰まり炎症が起こる、などです。これらが原因で、粘膜や歯ぐきを傷つけ



（写真2）つららのようにとがった歯

て痛みが出たり、感染が起こったりしてしまいます。

歯に異常があると馬は時にサインを出します。これをいち早く見つけてあげる

ことも重要です。主な症状として、噛みこぼす、馬が痩せる、よだれを出す、頭を振ったり傾ける、口や鼻からの悪臭、アゴのはれ、糞中に未消化のエサが多い、などが挙げられます。しかしながら、上にも書いたように重症になるまで我慢してサインを出してくれない馬も多くいます。重症になると健康被害が深刻になったり、治療できないくらい症状が進行したりします。そこで年に一度の定期検査が重要となってきます。

検査では、開口器を使って口の中全体をチェックし、必要であれば電動やすりを用いて歯を削るなどの治療も行います（写真3）。愛馬の健康を守るため、繁殖成績を向上させるため、元気な仔馬を生み育てるために、年一回歯の検査を行いましょう！



（写真3）電動やすりで治療中